

小説

なかもと

中本たか子

こ



下関市
(1903～1991)

中本たか子（本名、タカ子）、結婚して蔵原姓。下関市豊北町角島の出身。日本の怒濤を子守歌に育ち、不屈の闘志で生涯を生き抜く。最初、新感覚派の作家横光利一を頼ったが、所属する『女人芸術』の左傾とともに、プロレタリア作家として精力的に活躍。そして投獄の苦しみをなめる。戦後は民主主義文学を旗印に、基地問題や安保闘争、また被爆者援護に関係。現代史の断層を描く。

（和田 健）

【主な著作】

『白衣作業』（六芸社、昭和13年）

『南部鉄瓶工』（新潮社、昭和13年）

『近代女性作家精選集』（ゆまに書房、平成11年）